

C.W.ニコルさんと考える

「すこやかな地球よ、永遠に」

地球環境保全、自然環境保護をライフワークとし、長年にわたって積極的で幅広い活動を行っているC.W.ニコルさん。地球温暖化の深刻な影響と、その防止のために私たちができることについてお話ししていただきました。



駐車場に落葉樹を
バルコニーで自家栽培を

僕が日本に初めて来たのは四十年ほど前。当時と比べると、自動車台数は二十倍以上になっているのではないだろうか。自動車が多ければ、駐車場が多くなります。駐車場は熱をもつアスファルト敷きですから、駐車場が増えると、街がどんどん暑くなる。すると、みんなはどんどんクーラーを使う。これでは温暖化は止まりません。アメリカのニューハンプシャー州のダートマス市では、特別なクルマしか市街地へは入れません。だから市民は、市街地の外側にある駐車場に自動車を止め、シャトルバスで市街地へ入ります。不便といえば不便かもしれませんが、そのような条例ができる、市民が道を歩いたりバスに乗ったりしますから、沿道の家々は窓辺に花



C.W.ニコル(小説家、冒険家)
1940年、イギリス生まれ。17歳でカナダへ渡り、海洋哺乳(ほ)類の調査研究などを行う。エチオピア山岳国立公園創設など、自然保護活動にも深くかかわる。森林保護団体(NPO)「アフアの森基金」の創設者でもある。

を飾ったり、玄関前に植物のポットを置いたり、それぞれに工夫をします。すると、自然に街並みまできれいになるんです。

街づくりで、ここまで大掛かりなことをするのが難しいけれど、駐車場に落葉樹を植えることを義務付けてはどうかというのが、僕のアイデア。木の葉は木陰を作るし、葉は一枚一枚が水を蒸発する天然のクーラーです。何本も木を植えれば、木と木の間を風が抜けるので、さらに涼しくなります。そうすれば、夏、駐車している自動車の室温も上がらないので、クーラーをつけることも少なくなります。

それぞれの住まいのバルコニーで自家栽培をするのもいいと思います。キュウリやナス、トマトを栽培したり、アサガオやヤマブドウを育てたり。それ自体が楽しいことですし、また、ナスなら紫、キュウリなら黄色と、いろんな色の花が咲き乱れると、街全体がとてもきれいになります。そんな街になれば、住んでいる人も自慢になりますし、訪れる人も喜ぶはず。楽しみながら温暖化防止に力を貸せるいい方法ではないでしょうか。

ここは自分の「ミニシティ
そんな自覚が一番大切

ニューハンプシャー州の州都・



春に咲くはずの桜が
十二月に咲いた

地球温暖化は、二十年以上も前から僕がカナダ政府の環境局で働いていたころから指摘されていた問題です。平成四年に各国で対策を行うための条約が作られ、平成九年に「京都議定書」が採択されたことが、世界的な関心を高めるきっかけになりました。

残念ながら、温暖化は着実に進んでいます。去年アラサカで聞いた話によると、この十年間で氷河が八マイル(約一・六キロメートル)も後退したそうです。また、揚がるはずのないサバが揚がり、近くでマンボウが回遊していたなど、明らかに生態系に変化が出ているとも。僕の故郷・イギリスのウエルズ州では、四、五月に咲くはずの桜が十二月に咲いたそうです。山登りが好きな友人は、アルプスの雪や氷が解けていると言っていましたし、カナダでは四国よりも広い面積の森が死んでいるというレポ

ートもあります。このほかに、ツンドラ地帯では、氷がずいぶん解け出ているなど、温暖化は広範囲でさまざまな異変を引き起こしており、とても深刻です。

温暖化の大きな原因は、石油や石炭などの化石燃料の燃焼によって発生する二酸化炭素にあります。例えば、夜、日本を上空から見下ろすと、ピカピカ光っています。街灯やネオンサインが、それだけたくさんついているからです。でも、それらはすべて必要なものではないでしょうか。もし必要がなければ、それは電気の無駄遣い。電気の多くは石油や石炭を燃やして作っていますから、温暖化に加担していることになりま。

温暖化にストップをかける森を破壊することも食い止めなければいけません。日本は国土に森林の占める割合が高いせいか、木を切ることに対して鈍感な気がします。この木一本くらい切ろうと切るまじいと、変わらないという考えなのでしよう。でも、小さな自分勝手の積み重ねの結果が、温暖化を引き起こしたことも事実です。「自分一人くらい、いいだろう」という考え方は捨ててほしいですね。



コンコード市では、個人の家でも少なくとも一本は大きな木が植えられています。その木の一部には、鳥やリスなどの小動物がいて、とても美しいですし、楽しいです。市民一人ひとりが、そういういたものを大切にすることを意識を持っているからです。落ち葉の始末が面倒だから木を植えるなど言う人がいますが、それは、地球温暖化の観点からいえば、酸素ポンペを背負って歩いてくださいと言いたいくらい、非常識な気がします(笑)。

ある時、日本でドライブをしていたら、前の自動車の窓から、空き缶が投げ捨てられました。僕は車から降り、その空き缶を拾って、「忘れ物だよ」と注意をしたんです。その人はとても驚いていましたね。その人はなぜ、そのような行為ができるのかを考えてみると、今自分のいるところが自分の「ミニシティ」、自分の街、自分の国だということ気がないからでしょう。地球環境に対する考え方も同じことなんです。

地球は自分の居場所であり、さらに、みんなの場所でもある。だから、一人ひとりが、そして、みんなが大切にしなければいけないという自覚を、もっと強く持たなければいけません。